

# 琉球大学医学部規程

(昭和 56 年 3 月 31 日制定)

(趣 旨)

第 1 条 この規程は、琉球大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか、琉球大学医学部（以下「医学部」という。）の授業科目、単位、授業時間、履修方法その他必要な事項を定める。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第 1 条の 2 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(学科及び講座)

第 2 条 本学部に、次の学科及び講座を置く。

医学科

保健学科 基礎看護学、成人老年看護学、母子看護学、地域看護学、生体検査学、病態検査学

(教育研究上の目的)

第 2 条の 2 医学部の教育研究上の目的及び医学科、保健学科の人材の育成に関する目的は、次のとおりとする。

医学部

(1) 島嶼環境にある沖縄県のおかれた自然的・地理的条件並びに歴史的背景をふまえ、地域医療を充実させる。

(2) 国民の医療、福祉、保健の向上に貢献するとともに、南に開かれた国際性豊かな医学部として発展させ、東南アジアを主とする諸外国との学術交流及び保健・医療協力に寄与する。

医学科

医学に関する専門の学術を修得し、医の倫理を身につけ、医学の進歩に柔軟に対応しうる医師、研究者を育成する。

保健学科

保健学に関する専門の学術を修得し、生命を尊重する思いやりを持った、地域社会並びに国際社会に貢献する保健医療専門職者を育成する。

(共通教育等の授業科目の種類等)

第 3 条 共通教育及び専門基礎教育（以下「共通教育等」という。）の授業科目の種類、単位数及びその履修方法は、琉球大学共通教育等履修規程の定めるところによる。

(専門教育の授業科目等)

第 4 条 各学科の専門科目の種類、単位数、授業時間数及び履修方法については、別表 1 及び別表 2 のとおりとする。

(単位の計算方法)

第 5 条 専門教育の授業科目の単位の計算方法は、次のとおりとする。

(1) 講義及び演習については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。ただし、教育上必要と認められる場合には、30 時間の授業をもって 1 単位とする。

(2) 実験及び実習については、45 時間の授業をもって 1 単位とする。ただし、教育上必要と認められる場合には、30 時間の授業をもって 1 単位とする。

(3) 一つの授業科目について、講義、演習、実験又は、実習のうち二以上の方法の併用により行う場合において、講義及び演習については係数 3（ただし、演習については、教育上必要と認める場合には係数 1.5）、実験及び実習については係数 1（ただし、演習については、教育上必要と認める場合には係数 1.5）に対し、それぞれの授業時間を乗じて得た数値の和が 45 時間の授業をもって 1 単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適当と認められる場合には、これらに必要な学修を考慮して、単位数を定めるものとする。

(授業科目の公示)

第 6 条 各学科の各学期に開設する授業科目、単位数、授業時間数及び担当教官は、各学期の始めに公示する。ただし、臨時に開講する授業科目については、開講 1 週間前までに公示する。

(登録・試験及び成績評価)

第 7 条 医学科及び保健学科の共通教育等の科目並びに保健学科専門科目の登録、試験及び成績評価については、琉球大学各学部共通細則の定めるところによる。

2 医学科専門科目の試験及び成績評価については、別に定める。

(臨床実習履修条件)

第 8 条 医学科の臨床実習を履修できる者は、専門科目のうち、別に定める授業科目の試験に合格し、共用試験実施機構が行う共用試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination，CBT：Computer Based Testing）に合格した者でなければならない。

(関連教育病院)

第 9 条 医学部は、関連教育病院において学生の臨床実習の一部を行なわせるものとする。

2 前項の臨床実習に関する必要な事項は、別に定める。

(卒業の要件)

第 10 条 卒業するには、医学科にあつては本学に 6 年以上（学則第 29 条の 2 第 2 項の規定に基づく医学科の第 2 年次及び第 3 年次特別編入学生の卒業要件は、第 2 年次特別編入学生は 5 年以上、第 3 年次特別編入学生は 4 年以上）在学し、別表 3 に定める単位の修得並びに専門科目を履修し、かつ、総合試験に合格しなければならない。

2 保健学科にあつては本学に 4 年以上在学し、別表 4 に定める単位の修得並びに専門科目を履修しなければならない。

(卒業の判定)

第11条 卒業の判定は、教授会が行う。

(各種免許)

第12条 保健学科の学生で、各種の免許状を取得しようとする者は、当該免許にかかる所要の単位を別表5のとおり修得しなければならない。

(指導教員)

第13条 学生の勉学その他の相談に応じるため、各学科の年次ごとに指導教員を置く。

附 則 (略)

附 則 (平成10年11月4日)

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行し、平成17年3月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年7月23日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

## 医学科専門科目の種類及び授業時間数

## (1) 専門教育科目

授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考
解 剖 学 I	1 9 2	病理学 I (88) , 病理学 II (88)
解 剖 学 II	1 4 0	
生 理 学 I	9 8	
生 理 学 II	1 1 8	
生 化 学	1 2 6	
遺 伝 医 学	4 8	
発 生 学	2 8	
病 理 学 I ・ II	1 7 6	
細 菌 学	6 4	
寄 生 虫 学	4 8	
ウ イ ル ス 学	4 8	
免 疫 学	6 0	
薬 理 学	1 2 8	
衛 生 学 ・ 公 衆 衛 生 学	1 2 8	
法 医 学 ・ 医 事 法 制 学	8 0	
生 命 科 学	2 8	
医 科 認 知 情 報 科 学	1 8	
病 理 総 合 学 習	4 2	
医 療 情 報 学	1 4	
基 礎 研 究	1 4 4	
症 候 と そ の 評 価 法	3 4	
治 療 学 系	3 0	
消 化 器 系	7 6	
麻 酔 医 学 系	4 4	
呼 吸 器 ・ 胸 壁 ・ 縦 隔 系	6 0	
女 性 生 殖 器 系	7 2	
歯 ・ 顎 ・ 口 腔 系	3 0	
腎 ・ 泌 尿 器 系	7 4	
循 環 器 系	9 4	
運 動 器 系	7 4	
精 神 医 学 系	5 8	
内 分 泌 系	3 4	
皮 膚 結 合 織 系	5 6	
神 経 医 学 系	5 6	
血 液 学 系	2 8	
覚 覚 器 系 ( 耳 )	4 8	
感 覚 器 系 ( 眼 )	4 0	
感 染 症 学 系	6 0	
代 謝 学 系	2 4	
救 急 医 療 系	4 2	
小 児 医 学 系	8 0	
放 射 線 医 学 系	4 6	
臨 床 薬 理 学	3 2	
地 域 医 療 / プ ラ イ マ リ ・ ケ ア	2 0	
体 験 学 習	8	
( 臨 床 ・ 総 合 ・ 特 別 講 義 )	3 6	
特 別 演 習	2 8	
臨 床 実 習	1, 8 8 0	
関 連 教 育 病 院 実 習	1 6 0	
合 計	5, 0 5 2	

(2) 基礎教育科目

必修・選択 の別	科目番号	授業科目	単位
必修	医 205	医学概論 B	2
	医 503	医学外国語	2
	医 505	東洋医学概説	1
選択	医 101	外来患者付添い実習	1

(3) 第2、3年次編入学生に対する特化授業科目

必修・選択の別	科目番号	授業科目	単位
必修		熱帯医学・国際保健医学	1

別表1 保健学科 専門教育科目の種類・単位数・授業時間数

年次	科目番号	授業科目名	単位	週時間	受講年次	学期	年次	科目番号	授業科目名	単位	週時間	受講年次	学期
一年次	保新101	生命倫理学	1	(1-0)	1	前	三 年 次	保新325	がん看護論	1	(1-0)	3	前
	保新102	早期体験実習	1	(0-3)	1	前後		保新326	養護概説	2	(2-0)	3	前後
	保新103	看護学概論	2	(2-0)	1	後		保新327	病理組織細胞学	3	(2-3)	3	後
	保新104	保健福祉政策論	2	(2-0)	1	後		保新328	保健技術学実習Ⅱ	2	(0-6)	3	後
	保新105	保健関係法規	1	(1-0)	1	後		保新329	臨床化学Ⅰ	3	(2-3)	3	後
	保新106	生活援助看護技術Ⅰ	3	(1-4)	1	後		保新330	臨床化学Ⅱ	2	(2-0)	3	後
	保新107	生活援助看護技術実習Ⅰ	1	(0-3)	1	後		保新331	臨床生理学Ⅱ	3	(3-0)	3	後
	保新108	国際環境保健学	2	(2-0)	1	後		保新332	臨床免疫学	2	(1-3)	3	後
二 年 次	保新201	生化学実習	1	(0-3)	2	前		保新333	環境微生物学	2	(2-0)	3	後
	保新202	分析化学	2	(1-3)	2	前		保新334	食品衛生学	2	(2-0)	3	後
	保新203	保健技術関係法規	1	(1-0)	2	前		保新335	小児看護実践学	2	(1-2)	3	後
	保新204	疫学	2	(2-0)	2	前		保新336	母性看護実習	2	(0-6)	3	後
	保新205	公衆衛生看護学	1	(1-0)	2	前		保新337	慢性期看護実践学	2	(1-2)	3	後
	保新206	地区把握実習	1	(0-3)	2	前		保新338	精神看護実践学	2	(1-2)	3	後
	保新207	形態学	2	(1-3)	2	前		保新339	急性期看護実践学	2	(1-2)	3	後
	保新208	生理学	2	(1-3)	2	前		保新340	救急・災害看護の実践	1	(0-2)	3	後
	保新209	生化学	2	(2-0)	2	前		保新341	学校保健学	2	(2-0)	3	後
	保新210	免疫学	1	(1-0)	2	前		保新342	公衆衛生看護実践学	2	(1-2)	3	後
	保新211	病態生理学	2	(2-0)	2	前		保新343	在宅看護実践学	2	(1-2)	3	後
	保新212	生活援助看護技術Ⅱ	3	(1-4)	2	前		保新344	在宅看護実習	2	(0-6)	3	後
	保新213	生活援助看護技術実習Ⅱ	2	(0-6)	2	前		保新345	助産診断・技術学Ⅰ	3	(3-0)	3	後
	保新214	医用電子工学	3	(2-2)	2	後		保新346	看護システムと管理	1	(1-0)	3	後
	保新215	臨床心理学	2	(2-0)	2	後		保新347	健康教育学	2	(1-1)	3	後
	保新216	栄養学	2	(2-0)	2	後		保新348	国際母子保健論	1	(1-0)	3	後
	保新217	薬理学	2	(1-3)	2	後		保新349	卒業研究Ⅰ	1	(0-3)	3	後
	保新218	微生物学	2	(1-3)	2	後		保新350	RⅠ検査技術学	2	(2-0)	3	前
	保新219	病理学	2	(1-3)	2	後		保新351	遺伝子診断技術学	2	(1-2)	3	前
	保新220	症候病態論	2	(2-0)	2	後		保新403	病理特殊検査法	2	(2-0)	4	前
	保新221	母性看護学	1	(2-0)	2	後	保新404	保健技術英語文献講読	2	(2-0)	4	前	
	保新222	成人看護学	1	(2-0)	2	後	保新405	保健技術学実習Ⅲ	4	(0-12)	4	前	
	保新223	高齢期看護学	1	(2-0)	2	後	保新406	臨床微生物学	3	(2-3)	4	前	
	保新224	フィジカルアセスメント	1	(0-2)	2	後	保新407	小児看護実習	2	(0-6)	4	前	
保新225	外来看護実習	1	(0-3)	2	後	保新408	慢性期看護実習	2	(0-6)	4	前		
保新226	高齢期看護実習Ⅰ	1	(0-3)	2	後	保新409	精神看護実習	2	(0-6)	4	前		
保新227	島嶼地域看護論	1	(1-0)	2	後	保新410	急性期看護実習	2	(0-6)	4	前		
三 年 次	保新301	技術卒業研究Ⅰ	4	(0-12)	3	前後	保新411	保健師実習	3	(0-9)	4	前	
	保新302	医動物学	1	(1-0)	3	前	保新412	助産診断・技術学Ⅱ	3	(1-4)	4	前	
	保新303	医動物学実習	1	(0-3)	3	前	保新413	助産管理	1	(1-0)	4	前	
	保新305	保健技術学実習Ⅰ	2	(0-6)	3	前	保新414	成人総合看護実習	1	(0-3)	4	前	
	保新306	臨床血液学	2	(1-3)	3	前	保新415	看護総合実習	1	(0-3)	4	後	
	保新307	臨床検査管理・機器総論	2	(2-0)	3	前	保新416	健康食品学	1	(1-0)	3・4	前	
	保新308	臨床検査総論	2	(1-3)	3	前	保新417	感染看護学	1	(1-0)	3・4	前	
	保新309	臨床生理学Ⅰ	2	(1-3)	3	前	保新418	卒業研究Ⅱ	2	(0-6)	4	前後	
	保新310	保健統計学	2	(1-1)	3	前	保新419	技術卒業研究Ⅱ	4	(0-12)	4	前後	
	保新311	遺伝学	1	(1-0)	3	前	保新420	画像診断学	2	(2-0)	4	後	
	保新314	小児看護学	1	(2-0)	3	前	保新421	公衆衛生看護管理	1	(1-0)	4	後	
	保新315	精神看護学	1	(2-0)	3	前	保新422	助産実習	8	(0-24)	4	後	
	保新316	家族看護学	2	(2-0)	3	前	保新423	助産統合実習	1	(0-3)	4	後	
	保新317	周産期学	2	(2-0)	3	前	保新424	臨床看護技術の統合	1	(0-2)	4	後	
	保新318	助産の理論	3	(3-0)	3	前	保新425	養護実践演習	1	(0-2)	4	後	
	保新319	カウンセリング論	2	(2-0)	3	前	保新426	養護実習	4	3週間	4	後	
	保新320	母性看護実践学	2	(1-2)	3	前	保新427	看護英語文献講読	1	(1-0)	1~4	後	
	保新321	高齢期看護実践学	2	(1-2)	3	前	保新428	臨床病理学総論	1	(1-0)	3・4	前	
	保新322	高齢期看護実習Ⅱ	2	(0-6)	3	前	保新429	総合検査学	2	(2-0)	3・4	前	
	保新323	家庭訪問技術	1	(0-2)	3	前	保新430	教職実践演習(養護教諭)	2	(0-4)	4	後	
	保新324	緩和ケア論	1	(1-0)	3	前							

別表 2  
保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択の別	看 検	科 目 番 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容
必 選		保新101	生命倫理学	1	(1-0)	1	前	保健医療における生と死の倫理的問題について考える。
必 必		保新102	早期体験実習	1	(0-3)	1	前	保健医療の現場における早期体験を通して専門科目への動機づけを行う。
必 選		保新103	看護学概論	2	(2-0)	1	後	看護学概念及び看護の歴史を教授し、看護の対象である人間の理解、健康と看護、看護実践の理論的枠組み、看護師としての倫理的判断の基礎について事例を用いて学ぶ。
必 必		保新104	保健福祉政策論	2	(2-0)	1	後	保健・医療・福祉の基本理念や制度を理解し、相互の連携について学ぶ。行政組織を理解し、保健医療福祉計画の企画および評価について実践的に学び、保健医療サービスの提供に関する制度的しくみを体系的に学ぶ。
必 選		保新105	保健関係法規	1	(1-0)	1	後	保健医療福祉に関する基本法令、関係法令について学ぶ。
必		保新106	生活援助看護技術 I	3	(1-4)	1	後	看護に共通な基本技術、日常生活の援助看護技術、コミュニケーションについて学ぶ。
必		保新107	生活援助看護技術実習 I	1	(0-3)	1	後	入院している対象者を全人的に理解し、日常生活援助技術を実践的に学ぶ。
必 必		保新108	国際環境保健学	2	(2-0)	1	後	自然生態系と人間、有害環境因子、地球温暖化と環境・健康問題について国際的な視点を通して学ぶ。
選 必		保新201	生化学実習	1	(0-3)	2	前	生体諸物質の性質と機能や分離・測定法について実習する。
選 必		保新202	分析化学	2	(1-3)	2	前	物質の定量的・定性的分析法について実習や演習を通して理解を深める。
選 必		保新203	保健技術関係法規	1	(1-0)	2	前	臨床検査業務内容と関係ある法令
必 必		保新204	疫学	2	(2-0)	2	前	人間集団の中で出現する健康関連事象の頻度と分布およびそれらに影響を与える要因を包括的に考究し、健康増進や疾病予防のあり方について学ぶ。
必 選		保新205	公衆衛生看護学	1	(1-0)	2	前	公衆衛生看護活動の基本的な理念と目標を学ぶ。保健医療情報を用いて、地域の健康課題を捉える保健師活動の基本的な概要について学び、地域を基盤とした予防の考え方を学ぶ。また、地域の社会資源、保健医療福祉の関係機関や、地域看護活動を展開するための基本的知識を学ぶ。
必 選		保新206	地区把握実習	1	(0-3)	2	前	地域の社会資源を調査し、地域のアセスメントを行う。地域に顕在、潜在する健康課題を捉える。地域で生活する高齢者とのコミュニケーションを体験し、地域の関係機関との連携、協働を学ぶ。
必 必		保新207	形態学	2	(1-3)	2	前	人体の肉眼的、組織学的構造について講義と実習を通して理解をはかる。さらに、人体の基本的構造と機能の関連について学ぶ。
必 必		保新208	生理学	2	(1-3)	2	前	生理学は、生命現象のメカニズム、調節機構を理解する学問である。人体に見られる種々の生命現象のメカニズムについて、個々のシステムの働きと身体全体としての調節の働きと両面から講義する。基本的な検査技術を用いた実習を行なう。実習の結果をまとめレポートを作成する。
必 必		保新209	生化学	2	(2-0)	2	前	生化学の基本的事項である、(1) 人体を構成する基本物質の構造と機能、(2) それら基本物質の代謝、(3) それら基本物質の代謝異常と病気の関連について、分子論的観点から学ぶ。

別表 2  
保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択 の別	科 番 目 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	
								看
選	必	保新 2 1 0	免疫学	1	(1-0)	2	前	細菌やウイルスなどの微生物が体内に侵入することによって引き起こされる免疫反応について、これに関わる細胞群とサイトカインなどの液性因子が織りなす生体反応として捉え、さらに過剰な免疫反応（アレルギー）と免疫不全状態についてもこれら生体反応の異常として理解できるよう講義する。
選	必	保新 2 1 1	病態生理学	2	(2-0)	2	前	頻度の高い患者の訴えを取り上げ、病態の成立機序を学習する。
必		保新 2 1 2	生活援助看護技術Ⅱ	3	(1-4)	2	前	診療・検査に伴う看護技術、指導技術、フィジカルアセスメント、事例を用いて看護過程の展開方法について学ぶ。
必		保新 2 1 3	生活援助看護技術実習Ⅱ	2	(0-6)	2	前	生活援助看護技術、診療援助看護技術の実践を通して看護過程の展開方法について学ぶ。
選	必	保新 2 1 4	医用電子工学	3	(2-2)	2	後	臨床検査及び医療に応用されている電子工学の理論と医用機器について学習する。
選	選	保新 2 1 5	臨床心理学	2	(2-0)	2	後	さまざまな保健医療場面における対象者の心理学的理解と、心理アセスメント・心理療法を学ぶ。
必	必	保新 2 1 6	栄養学	2	(2-0)	2	後	栄養学の基礎を学び、人間の健康と栄養の関連について理解する。
必	必	保新 2 1 7	薬理学	2	(1-3)	2	後	医薬品の薬理作用、副作用及び臨床応用
必	必	保新 2 1 8	微生物学	2	(1-3)	2	後	病原微生物の分類・基本的検査方法、感染と免疫の基本知識
必	必	保新 2 1 9	病理学	2	(1-3)	2	後	疾病の原因、成り立ち、病態について学び、疾病により生じた臓器、組織、細胞の形態学変化と機能の変化の関連について理解する。
必	選	保新 2 2 0	症候病態論	2	(2-0)	2	後	主な疾患の症候、病態、治療の基本を学習する。
必	選	保新 2 2 1	母性看護学	1	(2-0)	2	後	母性看護の対象となる人々を理解するために必要な基本概念、看護援助に必要なプロヘルス、人生移行などの基本理論について学ぶ。
必	選	保新 2 2 2	成人看護学	1	(2-0)	2	後	生活者、発達段階、健康のレベルの視点から成人期である対象を捉え、看護を展開する上での基本的知識や看護理論について学ぶ。
必	選	保新 2 2 3	高齢期看護学	1	(2-0)	2	後	ライフサイクルからみた高齢（老年）期の特徴と加齢に伴う生活の変化、健康障害の特徴について理解し、健康の保持増進、自立した生活を支援するための高齢者看護の役割およびリハビリテーション看護の役割について学ぶ。
必		保新 2 2 4	フィジカルアセスメント	1	(0-2)	2	後	医学的知識に裏づけられたケアに生かせるフィジカルアセスメントの技術・知識を習得する。身体各部の機能をアセスメントするだけでなく成人、老年、母性、小児と各期の特長を生かした、ホリスティックなアセスメントも行う。
必		保新 2 2 5	外来看護実習	1	(0-3)	2	後	外来及び中央診療部門の特徴と看護の役割・機能を学ぶとともに、継続看護の視点から包括的な看護の役割と機能を学ぶ。
必		保新 2 2 6	高齢期看護実習Ⅰ	1	(0-3)	2	後	介護老人福祉施設で生活している高齢者の生活場面をとおして施設における高齢者看護の実際について学ぶ。

別表 2  
保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・選択の別	科 目 番 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	
								看
選	選	保新 2 2 7	島嶼地域看護論	1	(1-0)	2	後	沖縄県の地域特性に関わる保健活動を離島の公衆衛生看護活動を中心に学ぶ。
	必	保新 3 0 1	技術卒業研究 I	4	(0-12)	3	前後	保健諸分野の研究方法論、実験計画法、調査法などを学習する。
選	必	保新 3 0 2	医動物学	1	(1-0)	3	前	人間に病害を与える自然界の動物の形態、生態（感染経路、病害）、予防法について学習する
	選	保新 3 0 3	医動物学実習	1	(0-3)	3	前	医動物学の講義と平行し、重要事項について実習・見学を通して検査・予防方法などを習得する。
	必	保新 3 0 5	保健技術学実習 I	2	(0-6)	3	前	臨床検査に関する実務を学内外の病院において習得する。
	必	保新 3 0 6	臨床血液学	2	(1-3)	3	前	臨床検査に必要な血液学および血液疾患について学習する。
	必	保新 3 0 7	臨床検査管理・機器総論	2	(2-0)	3	前	検査技術管理(検体採取法や検体管理、成績の精度管理など)を含む検査管理総論と検査機器の保守管理を含む検査機器総論を学習する。
	必	保新 3 0 8	臨床検査総論	2	(1-3)	3	前	臨床検査に必要な知識、技術を学び、尿、便、血液などの一般検査について実習を行い、臨床的意義を学習する。
	必	保新 3 0 9	臨床生理学 I	2	(1-3)	3	前	心電図検査、呼吸心機能検査、超音波検査などの臨床生理検査について、その原理と検査の実際について学習する。
必	必	保新 3 1 0	保健統計学	2	(1-1)	3	前	人間集団を対象とした健康関連情報の種類、分布、収集方法、統計的整理、分析、評価など、統計学の基礎について学ぶ。
選	選	保新 3 1 1	遺伝学	1	(1-0)	3	前	遺伝学の基礎と遺伝性疾患への対応の基本を学ぶ。
必	選	保新 3 1 4	小児看護学	1	(2-0)	3	前	小児の成長・発達及び生活と社会・健康問題について理解し、小児看護の基本的理論と生活援助技術について学ぶ。
必	選	保新 3 1 5	精神看護学	1	(2-0)	3	前	心や性の発達、家庭、学校、職場、地域における精神保健と援助の概要、精神障害の基礎知識について学習する。
必	選	保新 3 1 6	家族看護学	2	(2-0)	3	前	健康問題のある患者、家族を1つのユニットと捉え、健康問題をアセスメントしアプローチするための基礎となる理論やモデル等について解説する。また、家族をテーマとする映画の分析や家族物語自作自演の集団学習を通して、多様な家族像を理解し現象を概念化できる知識と技術を学ぶ。
選	選	保新 3 1 7	周産期学	2	(2-0)	3	前	妊婦・産婦・褥婦管理に必要な症候・病態を学ぶ。
選		保新 3 1 8	助産の理論	3	(3-0)	3	前	女性の生涯を通した性・生殖に関する援助及び助産の理論について学ぶ。
選	選	保新 3 1 9	カウンセリング論	2	(2-0)	3	前	カウンセリングの基礎知識と基本的な技法をふまえ、学校や病院臨床その他での活用法を学ぶ。
必		保新 3 2 0	母性看護実践学	2	(1-2)	3	前	ヒューマン・セクシャリティ、リプロダクティブ・ヘルス/ライツを尊重し、特に周産期の女性や家族に対する看護援助の知識・実践技術を学ぶ。
必		保新 3 2 1	高齢者看護実践学	2	(1-2)	3	前	高齢者看護の基本的技術および日常生活援助技術、援助方法および社会における高齢者問題・課題について学ぶ。

別表 2  
保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択 の別	科 番 目 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	
								看 検
必	保新322	高齢期看護実習Ⅱ	2	(0-6)	3	前	病院で療養している高齢者の健康レベルに応じた看護の実践について学ぶ。	
必	保新323	家庭訪問技術	1	(0-2)	3	前	地域における個人・家族の生活支援技術を学ぶ。顕在化した問題を抱えるケースのみでなく、問題が潜在化したケースの介入支援について演習を行う。	
必	選	保新324	緩和ケア論	1	(1-0)	3	前	患者をトータルペインの視点で捉え、症状の緩和と患者のQOLの改善にむけての援助を提供するための基本的知識を学ぶ。また終末期における看護について学ぶとともに、死をめぐる倫理的課題やチーム医療についても理解を深め、看護の役割について考える。
選	選	保新325	がん看護論	1	(1-0)	3	前	がんに関する基礎的知識を習得し、がん患者・家族に対する援助方法について学習する。
選	選	保新326	養護概説	2	(2-0)	3	前	養護教諭の存在意義と職務の概要ならびに職務を遂行するための基本的な知識及び方法を学ぶ。
	必	保新327	病理組織細胞学	3	(2-3)	3	後	病理組織学、細胞診断学を学ぶ。さらに病理標本、細胞標本の作製に必要な知識と技術を講義と実習を通じて学ぶ。
	必	保新328	保健技術学実習Ⅱ	2	(0-6)	3	後	臨床検査技師等の職務遂行にあたって必要とされる諸検査の技術を習得する。
	必	保新329	臨床化学Ⅰ	3	(2-3)	3	後	血中諸酵素、諸代謝物質、ホルモンなどの定量法、各種臓器機能検査法について講義及び実習を通して学習する。
	必	保新330	臨床化学Ⅱ	2	(2-0)	3	後	体液や臓器の構成成分の質的・量的変動を通して病気の発症機構を臨床生化学の面から学習する。
	必	保新331	臨床生理学Ⅱ	3	(3-0)	3	後	画像診断や感覚機能検査を中心として生理機能検査とその臨床的意義について学習する。
	必	保新332	臨床免疫学	2	(1-3)	3	後	病態の成立機序を免疫学的側面により学習する。
選	選	保新333	環境微生物学	2	(2-0)	3	後	種々の環境下に生息する微生物の種類・生態および多種多様な機能や特性について学習する。
選	選	保新334	食品衛生学	2	(2-0)	3	後	食の安全に関わるさまざまな事例を知り、食品安全管理の重要性について理解する。
必		保新335	小児看護実践学	2	(1-2)	3	後	小児の健康の維持・増進・回復及びQOLの向上に必要な看護の理論と技術について学ぶ。
必		保新336	母性看護実習	2	(0-6)	3	後	母性看護の知識と技術を臨地実習の場を通して統合し、実践力を高める。
必		保新337	慢性期看護実践学	2	(1-2)	3	後	慢性期にある患者および終末期にある患者を対象に、個々のレベルに合った健康に向けて、QOLの向上と充実をめざした看護援助が行えるよう、日常生活および家族への援助の方法を学ぶ。
必		保新338	精神看護実践学	2	(1-2)	3	後	精神の健康問題をもつ対象者の看護援助方法について学習する。
必		保新339	急性期看護実践学	2	(1-2)	3	後	疾病や外傷、手術等により高度な侵襲を受ける急性期成人患者の理解を深め、適切な看護を実践するためのコミュニケーション技術、フィジカル・アセスメントを含めた看護方法について学ぶ。

別表 2  
保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・選択の別	看 検	科 目 番 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容
選	選	保新340	救急・災害看護の実践	1	(0-2)	3	後	養護教諭ならびに看護系技術者に必要な救命救急の基本について学び、救急法の知識と救急処置法の基礎的な技術の習得を図る。また、災害直後から支援できる看護実践について理解し、災害看護の知識及び実践方法について講義と演習を通して学習する。
選	選	保新341	学校保健学	2	(2-0)	3	後	学校における保健管理や保健教育のあり方について学ぶ。
必		保新342	公衆衛生看護実践学	2	(1-2)	3	後	集団における健康の維持増進について特定集団、グループ、地域組織に対する介入支援を学び、グループを対象とした教育方法、集団力学について学ぶ。働く人人の健康管理、職場での健康管理について学ぶ。さらに、健康危機が発生した時の対応についても学ぶ。
必		保新343	在宅看護実践学	2	(1-2)	3	後	在宅で療養する人々や家族の健康問題、生活障害、終末期が等の看護展開に必要な看護技術、社会資源の活用方法、他機関との連携やケアマネジメントなど、在宅ケアにおける看護者の役割及び機能について解説する。また、対象者の健康問題や生活障害をアセスメントし、多様な価値観、生活習慣等を尊重しつつQOLの維持・向上をめざす看護者の知識・技術・態度について学ぶ。
必		保新344	在宅看護実習	2	(0-6)	3	後	訪問看護ステーションにおいて、疾病や障害を持つ療養者、終末期にある対象・家族への在宅看護活動に同行し、看護技術の提供、環境整備、療養生活の維持・向上にむけた他機関との連携、ケアマネジャーとの協働を体験する。また、受持ち事例をアセスメントし、課題検討や看護計画立案、評価、修正を通して実践力を養う。
選		保新345	助産診断・技術学 I	3	(3-0)	3	後	妊娠・分娩・産褥・新生児各期の経過診断及び健康生活にかかわる診断について学ぶ。
選	選	保新346	看護システムと管理	1	(1-0)	3	後	チーム医療及び他職種との協働の中で、メンバーシップ・リーダーシップを理解し、看護マネジメント、医療安全管理、災害看護、諸外国との協力について学ぶ。
選		保新347	健康教育学	2	(1-1)	3	後	健康教育における理論と方法を学び、演習を通して実践力を高める。
選	選	保新348	国際母子保健論	1	(1-0)	3	後	国際母子保健の現状と課題を理解し、感染症と栄養障害を中心に学習する。
必		保新349	卒業研究 I	1	(0-3)	3	後	保健・看護諸分野の研究方法論、実験計画法、調査法などを学習する。
選	必	保新350	R I 検査技術学	2	(2-0)	3	前	放射性同位元素の基礎原理と臨床検査における利用について学習する。
	必	保新351	遺伝子診断技術学	2	(1-2)	3	前	分子生物学的手法を用いた各分野の臨床検査について学習する。
選	選	保新403	病理特殊検査法	2	(2-0)	4	前	特殊染色、免疫組織染色の理論、電子顕微鏡の理論とその応用について講義する。
選	選	保新404	保健技術英語文献講読	2	(2-0)	4	前	保健技術系各分野のトピックスを外国文献を通して学習する。
	必	保新405	保健技術学実習Ⅲ	4	(0-12)	4	前	学内外の総合病院において、実践的検査技術を実習する。
	必	保新406	臨床微生物学	3	(2-3)	4	前	感染症の診断・治療に寄与しうるような病原微生物の検査法の講義および実習

別表 2  
保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択 の別	科 番 目 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	
								看
必	保新 4 0 7	小児看護実習	2	(0-6)	4	前	健康に問題のある小児の看護を看護過程を通して実践し、小児の健康回復・維持・予防及びQOLの向上に必要な小児看護技術、社会資源、小児病棟管理等について学ぶ。	
必	保新 4 0 8	慢性期看護実習	2	(0-6)	4	前	慢性期にある対象者に対し、個別性を踏まえ、セルフケア能力を促進させるための看護過程を展開し、看護の実際を学ぶ。	
必	保新 4 0 9	精神看護実習	2	(0-6)	4	前	精神の健康問題をもつ対象者の看護援助の実際について学習する。	
必	保新 4 1 0	急性期看護実習	2	(0-6)	4	前	周手術期にある成人を受け持ち、患者理解を深めるようコミュニケーション技術、フィジカル・アセスメントを含めた看護実践、事例の看護過程の展開をとおして看護の実際を学ぶ。	
必	保新 4 1 1	保健師実習	3	(0-9)	4	前	地域の生活集団を対象にした公衆衛生看護活動や家庭訪問の実際を学ぶ。地域組織との連携、育成について学ぶ。健康危機管理のシステムについて学ぶ。	
選	保新 4 1 2	助産診断・技術学Ⅱ	3	(1-4)	4	前	助産診断に基づく基礎技術と分娩助産技術・相談技術について学ぶ。	
選	保新 4 1 3	助産管理	1	(1-0)	4	前	医療施設の助産業務管理・運営及び地域母子保健活動における助産師の役割を学ぶ。	
必	保新 4 1 4	成人総合看護実習	1	(0-3)	4	前	急性期看護実習を基盤に、継続して事例のケーススタディを行い、病棟や外来における看護チーム活動、看護管理の視点から総合的に実習する。	
必	保新 4 1 5	看護総合実習	1	(0-3)	4	後	各領域実習を終えた学生がさらに関心を深めたい領域（基礎・成人・在宅・小児・母性・精神・老年・地域）の中から、自己の課題目標を主体的に設定し、その課題を達成するための実習（方法論として臨地またはケーススタディ等より選択）を行ない、総合的な看護実践能力を養う。	
選	選	保新 4 1 6	健康食品学	1	(1-0)	3・4	前	健康食品と医薬品の相違、健康食品の過剰摂取による問題、健康食品関連法規など、健康食品についての基礎知識を学ぶ。
選	選	保新 4 1 7	感染看護学	1	(1-0)	3・4	前	医療・保健・福祉などの施設、在宅、地域の場における個人及び集団の特徴を把握して、感染予防、感染症からの治癒・回復の促進、感染防止そして医療安全のための看護の役割について学ぶ。
必	保新 4 1 8	卒業研究Ⅱ	2	(0-6)	4	前後	研究計画書に沿って研究を行い研究論文の作成ならびに発表を行う。	
	必	保新 4 1 9	技術卒業研究Ⅱ	4	(0-12)	4	前後	保健諸分野における調査、実験研究を行い、研究論文の作成ならびに研究発表を行う。
選	選	保新 4 2 0	画像診断学	2	(2-0)	4	後	各種の画像検査法の特性及び臓器別に特徴的な疾患の診断について学習する。
選		保新 4 2 1	公衆衛生看護管理	1	(1-0)	4	後	公衆衛生看護活動の管理や評価、社会資源の開発について活動事例を中心に学ぶ。行政組織を理解し、保健医療福祉計画の企画および評価について実践的に学ぶ。健康危機が発生した時の対応についても学ぶ。
選		保新 4 2 2	助産実習	8	(0-24)	4	後	助産師として実践に必要な診断技術や分娩助産技術・保健指導技術を習得する。
選		保新 4 2 3	助産統合実習	1	(0-3)	4	後	助産実習を通して明らかになった自分の課題・深めたい技術について重点的に実習し、助産実践のあり方を総括する。

別表 2  
保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・選択の別		科 目 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容
看	検							
選		保新424	臨床看護技術の統合	1	(0-2)	4	後	臨地実習における学生の看護技術体験と実践能力自己評価の分析を踏まえ、モデルや模型を活用した演習で臨床看護技術の統合を図る。またコミュニケーション演習や多重課題が発生する状況設定演習により実践的な対応能力を養い、合わせて総合的な看護技術の評価を行う。
選		保新425	養護実践演習	1	(0-2)	4	後	養護教諭としての専門的知識と技術の習得をより効果的にすすめるために、養護実習に即して事前指導・中間報告会ならびに事後指導を行う。
選		保新426	養護実習	4	3週間	4	後	教育活動全般ならびに学校保健活動（保健管理・保健教育・組織活動）の展開を実際に体験し、養護教諭として学校保健活動を推進していく実践的能力を培う。
選	選	保新427	看護英語文献講読	1	(1-0)	1~4	後	国際的視野を広め、時代に対応した看護学の理解を深めるよう看護研究に必要な英文の看護文献、原著論文を邦訳し、それをもとにクリティカルシンキングを学ぶ。
選	必	保新428	臨床病理学総論	1	(1-0)	3・4	前	様々な疾病について臓器別・機能別に分類して捉え、病因・病態、診断と主な治療法について系統的に理解できることを目的として講義する。内容は序論に始まり12の臓器別・機能別疾患群からなり、各疾患群の臨床病理の基本を把握できるようにになっている。
選	選	保新429	総合検査学	2	(2-0)	3・4	前	各教科の学習によって得られた知識を統合的に活用しながら、臨床検査各分野のトピックスや最近話題の疾患について複数教員が講義し、検査と疾患のつながりを学習する。
選		保新430	教職実践演習（養護教諭）	2	(0-4)	4	後	教員として最低限必要な資質能力が培われているか否かを確認する。教員としての①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項②社会性や対人関係能力に関する事項③児童生徒理解や保健室経営等に関する事項④保健指導の指導力に関する事項を満たすため、これまで学修した教職科目等の振り返り、現地調査（フィールドワーク）、模擬授業、グループ討議等を行う。

別表 3  
医学科卒業要件

授 業 科 目 の 区 分		必 修	選 択	備 考	
共 通 教 育	教養領域	健康運動系科目		ヒトの科学と人間の医学（医学概論A）（2）、 動物実験の基礎（2）  倫理総合討論（2）  情報科学演習（2）  英語（6）、英語以外の一つの外国語（4）	
		人文系科目			4単位
		社会系科目			4単位
		自然系科目			
	総合領域	総 一 般	4単位		
			合		高学年次
		琉大特色科目			
	基幹領域	情報関係科目			2単位
外国語科目		10単位			
小 計		26単位			
専 門 基 礎 教 育	先 修 科 目		17単位	統計学（2） 生物学Ⅰ（2）、Ⅱ（2）、生物学実験（1） 物理学実験（1）、化学実験（1）  *上記科目以外に下の科目の中から履修すること 微積分学STⅠ（2）、Ⅱ（2） 物理学Ⅰ（2）、Ⅱ（2） 化学Ⅰ（2）、Ⅱ（2）	
専 門 教 育	専 門 科 目	基礎教育科目		5単位	医学概論B（2） 医学外国語（2） 東洋医学概説（1）
		専門教育科目		5,052時間	
合 計		48単位 5,052時間			

抜 粋

琉球大学医学部規程

（臨床実習履修条件）

第8条 医学科の臨床実習を履修できる者は、専門科目のうち、別に定める授業科目の試験に合格し、共用試験実施機構が行う共用試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination，CBT：Computer Based Testing）に合格した者でなければならない。

（卒業の要件）

第10条 卒業するには、医学科にあつては本学に6年以上（学則第29条の2第2項の規定に基づく医学科の第2年次及び第3年次特別編入学生の卒業要件は、第2年次特別編入学生は5年以上、第3年次特別編入学生は4年以上）在学し、別表3に定める単位の修得並びに専門科目を履修し、かつ、総合試験に合格しなければならない。

◎学士入学者の卒業要件に以下を加える。

学士入学者は、「学士入学者に対する特化授業」を履修すること。

※医学科専門教育科目の授業時間・内容等詳細については「琉球大学医学部医学科履修要綱」を参照すること。

別表 4

## 保健学科卒業要件

授業科目の区分		必修	選択	備考	
共通教育領域	健康運動系科目	2 単位	2 単位以上	ヒトの健康科学 (2 単位)	
	人文系科目	4 単位			
	社会系科目	4 単位			
	自然系科目	4 単位			
	総合領域	総合科目		2 単位	情報科学演習 (2 単位)
	琉大特色科目				
	基幹領域	情報関係科目		2 単位	英語 (8 単位)、又は英語 (4 単位) と他の一つの外国語 (4 単位)
	外国語科目	8 単位			
小 計		28 単位以上			

看護学コース				検査技術学コース		
授業科目の区分		必修	選択	授業科目の区分	必修	選択
専門教育	基礎領域	36 単位	3 単位	先修科目 転換科目	①化学Ⅱ (2 単位) ②化学実験 (1 単位) ③生物学Ⅱ (2 単位) ④物理学Ⅱ (2 単位) 又は物理学入門Ⅱ (2 単位) 上記指定科目より 5 単位以上	14 単位以上
	実践領域	42 単位	2 単位	専門基礎科目	23 単位	
	展開領域	12 単位	3 単位	専門科目	56 単位	
小 計		98 単位以上				
卒業要件		共通教育+専門教育=126 単位以上				

注 1 専門教育科目の授業時間・内容等については、「保健学科履修要綱」及び「琉球大学 Syllabus Web」参照

注 2 看護学コースの学生は、共通教育「人文系科目」の「人間関係論」、「生命倫理」を履修することが望ましい。

注 3 検査技術学コースの共通教育「総合科目」2 単位は、「動物実験の基礎」、「遺伝子の話」、「熱帯の科学」の中から履修することが望ましい。又、共通教育の選択欄の 2 単位は、専門基礎教育指定科目の中から履修する。

注 4 看護学コースの養護教諭一種免許取得を希望するものは、社会系科目「憲法概論」及び「保健学科履修要綱の別表 5, 6, 7, 8」を参照して専門教育の選択科目を履修すること。また、学期毎に「教職課程 履修カルテ」の記入をすること。

注 5 看護学コースの学生のうち、保健師免許取得後（卒業後）に養護教諭二種免許状取得を希望するものは、社会系科目「憲法概論」を履修すること。

別表 5

免許に必要な科目及びコース別必修科目

注：この表以外に卒業に必要な科目も履修すること。

看護学コース				検査技術学コース		
基礎領域	看護師・保健師			臨床検査技師		
	△● 生命倫理学	1	△● 病理学	2	△● 形態学	2
	△● 看護学概論	2	△● 症候病態論	2	△● 生理学	2
	△● 早期体験実習	1	△● 母性看護学	1	△● 生化学	2
	△● 保健福祉政策論	2	△● 成人看護学	1	△● 病理学	2
	△● 保健関係法規	1	△● 高齢期看護学	1	△● 微生物学	2
	△● 疫学	2	△● 公衆衛生看護学	1	△● 薬理学	2
	△● 形態学	2	△● 地区把握実習	1	△● 栄養学	2
	△● 生理学	2	△● 保健統計学	2	● 保健福祉政策論	2
	△● 生化学	2	△● 小児看護学	1	● 疫学	2
	△● 栄養学	2	△● 精神看護学	1	● 国際環境保健学	2
	△● 薬理学	2	△● 家族看護学	2	△ 保健技術関係法規	1
	△● 微生物学	2			△● 保健統計学	2
	臨床心理学	2	遺伝学	1		
免疫学	1	環境微生物学	2			
総合検査学	2	食品衛生学	2			
病態生理学	2	健康食品学	1			
臨床病理学総論	1	画像診断学	2			
助産師						
△ 周産期学	2	△ 助産の理論	3			
実践領域	看護師・保健師			専門科目		
	△● 生活援助看護技術Ⅰ	3	△● 精神看護実践学	2	● 早期体験実習	1
	△● 生活援助看護技術実習Ⅰ	1	△● 精神看護実習	2	△ 生化学実習	1
	△● 生活援助看護技術Ⅱ	3	△● 高齢期看護実践学	2	△● 臨床化学Ⅰ	3
	△● 生活援助看護技術実習Ⅱ	2	△● 高齢期看護実習Ⅱ	2	△● 臨床化学Ⅱ	2
	△● フィジカルアセスメント	1	△● 慢性期看護実践学	2	△● RⅠ検査技術学	2
	△● 高齢期看護実習Ⅰ	1	△● 慢性期看護実習	2	△● 分析化学	2
	△● 外来看護実習	1	△● 急性期看護実践学	2	● 病理組織細胞学	3
	△● 母性看護実践学	2	△● 急性期看護実習	2	△● 臨床検査総論	2
	△● 母性看護実習	2	△● 公衆衛生看護実践学	2	△● 臨床検査管理・機器総論	2
	△● 小児看護実践学	2	△● 家庭訪問技術	1	● 遺伝子診断技術学	2
	△● 小児看護実習	2	△● 保健師実習	3	△● 臨床生理学Ⅰ	2
	公衆衛生看護管理	1			△● 臨床生理学Ⅱ	3
					△● 医用電子工学	3
養護教諭						
△ カウンセリング論	2	△ 学校保健学	2	△● 臨床微生物学	3	
△ 救急・災害看護の実践	1			△● 医動物学	1	
				△● 免疫学	1	
				△● 臨床免疫学	2	
				△● 臨床血液学	2	
				△● 病態生理学	2	
				△● 臨床病理学総論	1	
				△● 保健技術学実習Ⅰ	2	
				△● 保健技術学実習Ⅱ	2	
				● 保健技術学実習Ⅲ	4	
				● 技術卒業研究Ⅰ	4	
				● 技術卒業研究Ⅱ	4	
展開領域	看護師・保健師			履修が望ましい選択科目		
	△● 緩和ケア論	1	△● 看護総合実習	1	生命倫理学	1
	△● 在宅看護実践学	2	△● 卒業研究Ⅰ	1	病理特殊検査法	2
	△● 在宅看護実習	2	△● 卒業研究Ⅱ	2	医動物学実習	1
	△● 成人総合看護実習	1	△● 国際環境保健学	2	画像診断学	2
	島嶼地域看護論	1	△● 感染看護学	1	保健技術英語文献講読	2
	看護英語文献講読	1	国際母子保健論	1	環境微生物学	2
	がん看護論	1	臨床看護技術の統合	1	症候病態論	2
	看護システムと管理	1			総合検査学	2
					遺伝学	1
					国際母子保健論	1
					島嶼地域看護論	1
	助産師					
	△ 助産診断・技術学Ⅰ	3	△ 助産管理	1		
△ 助産診断・技術学Ⅱ	3	△ 助産実習	8			
△ 助産統合実習	1					
養護教諭			健康食品管理士			
△ 健康教育学	2	△ 養護実践演習	1	△ 健康食品学	1	
△ 養護概説	2	△ 養護実習	4	△ 食品衛生学	2	
△ 教職実践演習（養護教諭）	2					

<備考> 1. △印は当該欄の免許指定科目 ●印は当該欄のコース必修科目